

唯味九壬辰年

詩

春らちりしとちり朝子懐きをゆくをて読みの
風流子ぬい幸に中事くは友子とえの事を目し
ちし竹の子十とせさぬほとや櫻浦乃鏡全を
て公替のいしり子唐士いしりし知毛志や
多の懐ぬの不通ちる坪しり子より風流
多時そのもの子あしりて絶し系しむと
多居士の教を荷ひぬ既子官の辞して古園子
多し世死ぬの菊子頼ひちをも替しりく限送
ちり子心そちりて

やー母子以子し似り

福寿草

孤帆

春真

ささや 翠葉簾こうら透く念ほ一景

抄きく

幸尾

申りりしとちりし出さし
幸りりし

春真

鞠恒をとりて

咲りり

梅乃花

松露人

石

